

公営住宅での介護に配慮した高齢対応に関する研究

担当部科 住生活科、人間科学科

研究の目的

本研究は、道が進めているユニバーサルデザイン道営住宅設計指針(UD指針)の策定と連携し、在宅介護に配慮した公営住宅の設計手法を検討することを目的としています。

研究概要

今年度は、既設住戸実態調査およびユーティリティ廻りの検証実験を行いました。既設住戸実態調査は、近年建設された高齢化対応済の既設道営住宅に入居する要介護高齢者同居17世帯を対象に調査を実施し、在宅介護からみた公営住宅の問題点の把握と課題整理を行いました。

在宅介護からみた公営住宅の課題

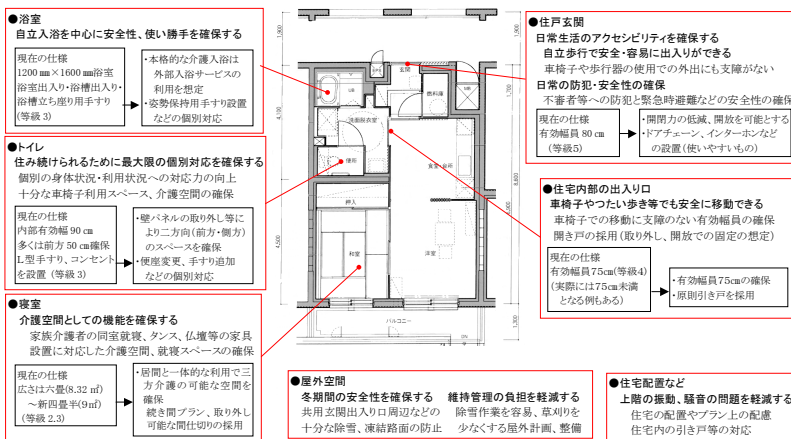


図1 在宅介護を視点とした公営住宅住戸課題



写真1 介護者の同室就寝利用

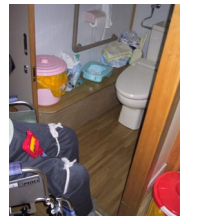


写真2 車いす常用者のトイレ

ユーティリティ廻りの検証実験

ユーティリティ廻りの検証実験は、在宅介護について課題の多いトイレを中心に、UD指針の検討項目と標準プランを検証するため、三タイプの実寸モデルを設置し介助が必要な高齢者の方などに実際に使用していただきました。その結果、トイレ前方空間を1,000mmとすることや、ユーティリティを可変とすること、動線上の有効幅員1,200mmとすることなど、表1の基本仕様の有効性が確認され、図2のプランを標準プランとしました。

表1 UD設計指針の主な検討事項

トイレ ・ 便器前方空間 ・ 便器側方空間	
ユーティリティ可変の効果 ・ トイレの居住切り替えすることでの思いやり対応、介護対応の状況	
動線上の幅員 ・ 出入口 - 850mm ・ 通路幅員 - 1,200mm	
プランによる使いやすさの違い ・ ユーティリティの出入口の位置とトイレ、浴室の位置 ・ トイレの出入口の位置(縦入り、横入り)	2 D K 2プラン 2 L D K 2プラン 3 L D K 2プラン

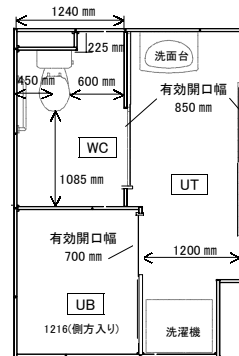


図2 標準プラン(採用案)



写真3 検証実験風景



写真4 要介助車いす高齢者

今後の取り組み

来年度は、既設公営住宅の改修による介護に配慮した高齢対応手法や、UT可変の具体的手法(可変パネルの仕様など)の検討を行う予定です。